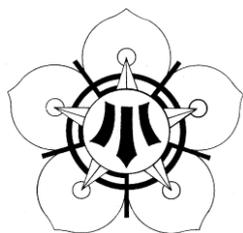


地域と家庭と学校が一つになって子どもを育む…それが“チーム七小”です！

福生市立福生第七小学校

令和6年度 学校だより



# くさぶえ

福生第七小学校

ホームページ

URL

<https://fussa-7e.hs.fussa.school/>



所在地 福生市北田園一丁目1番地1

発行責任者 校長 山岸 史子

令和7年1月31日 発行



## 認めること、褒めることを大切に

副校長 山田 尚人

「親友」という言葉を見たり聞いたりしたとき、いつも真っ先に頭に浮かぶ人物がいます。

彼は誰に対しても気さくに話しかけ、すぐに仲良くなってしまふ、なんとも不思議な魅力をもった人物で、その魅力に惹かれてか、彼の周りには私を含め自然と多くの人が集まってきました。明るく前向きな性格、人の心を引き付ける軽快な話術、彼の魅力の源はたくさんあります。しかし、私が彼に対し最も魅力を感じ、同時に最も尊敬していた点は他にあります。それは、人の良さががんばりを素直に認め、ほめることができることです。「山田のこんなところがすごいよ」彼の言葉に、私は何度も助けられ、励まされました。二人でいる時も、他の友人のことを褒めることはあっても、陰口や悪口を言うことは決してありませんでした。

友達や周囲の人たちの良いところやがんばっている姿を見付け素直に認めるということは、思いのほか難しいことです。その一方で、嫌なところや怠けている姿は簡単に目に入り、その姿を責めたり、嫌ったりすることも、簡単にできてしまうものです。かく言う私たち教員も、廊下を走っている子を見かけると「廊下は歩きましょうね」と声をかけ、授業中に勝手なおしゃべりをしている子を見付けると「静かに勉強しようね」と耳元でささやくなど、「きまりを守れていないこと」「やるべきことをできていないこと」ばかりに目を向けてしまい、ともすると注意ばかりして一日が過ぎてしまう日もあります。もちろん、いけないことを毅然とした態度で「いけない」と伝えることは大切です。ただ、つい廊下を走ってしまう子がいる一方で、どんなに急いでも廊下を静かに歩いている子たちがいます。授業中におしゃべりをしてしまう子がいる一方で、毎時間集中して学習に取り組んでいる子たちもたくさんいるわけです。そういった子たちに対しても気持ちを向け、「えらいね」「がんばっているね」と言葉をかけることは、注意することと同じくらい、いやそれ以上に大切なことと言えるのではないのでしょうか。

令和6年度全国学力・学習状況調査の質問調査において、全国の約15%の児童が、「自分にはよいところがあると思わない、どちらかといえば思わない」と回答していました。また、12月に実施した「学校生活満足度調査」では、七小の子どもたちのおよそ4割が「自分はクラスの役にあまり立てていない、立てていない」と回答していました。自分自身の「良さ」や「誰かの役に立てている」という実感は、周りから認められる、褒められるといった価値付けがあることで、より強く認識することができます。「良さ」を知ると自分のことをもっともっと好きになれるはずで、子どもたちには、人のいいところやがんばっている姿に、どんどん目を向け、素直に認める気持ちをもってほしいと思います。そして、私の尊敬する友人がそうであったように、自分の周りにはいる友達やたくさんの人たちに、元気や勇気を与えてほしいと思います。そのためにも、まずは私たち大人が、学校で、家庭で、地域で、子どもたちの良さががんばりに目と気持ちを向け、認めること、褒めることの手本を示していきたいものです。